いわき民報

發行所
平市田町48 電381．176 1222
いわき民報社
編集兼印刷發行人 田原登

學校と家庭を連繫

道義高揚運動行事決る

平市では一日から三月末日まで縣下一齊に展開される道義高揚運動期間の行事對策について一日午後一時から市役所會議室に學校長、民生委員、公民館委員、警察署長、各種團体幹部等四十名が集つて懇談會を行つた

先ず阿部助役、長谷川教育課長の挨拶があつて後平地區署柴田次席の最近の犯罪狀況の説明があつて懇談に移り學校教員の再認識、商店の風紀等に對する新しい道德の定義が必要とされたそのためには精神の美化を必要として敬老會のもよほしや市民に呼掛けて右側通行を嚴守させること、車馬等の道路專用をなくすること、塵芥を處理して美化運動を起すことなどを申し合わせた、又學生より最近市内で見聞した善行美談を綴つた作品を募集して秀作は新聞掲載その他の方法で公表し更に賞品を與えると共に綴方等によつて發見された善行者の實態を調査して寄特なものを表彰することになつた

又各學校では左の如く實践項目を擧げて月間行事とする、1勤勞意欲の高揚、2友愛協力の發揮、3自立精神の養成4社會主義の實現、5合理的民主的な生活慣習の確立、6藝術宗教及びスポーツの重視7平和運動の推進等でこれらの運動展開のために各種團体組合と連絡して强力に推進し公民館を活用して地方の實情に即した新生活の確立を圖つて青少年勤勞者の教育徹底をはかり職域を中心としたレクリエーション運動を促進するために新聞や雑誌、放送、映畫、演劇、音樂、文藝等を通じてこの運動を展開しようということになつた—

四日スト突入

日曹赤井鑛交渉決裂

舊冬以來、従業員の大量整理退職金問題で去る二十五日から本社と交渉中であつた赤井村日曹赤井炭鑛勞組、熊田交涉委員ら五名から「一日午後三時遂に交渉決裂に至り四日一番方からスト突入する」と連絡して來た

中央交渉の決裂過程については未だ判明しないが、日鑛本部の應援もあつた模様で◇炭住の無償拂下げ（會社側では一戸五千円）◇退職金一人當り一万七千円へ會社側一万五千円稅込み）◇人員整理は百七十五名を出來る限り引下げることとの要求であり、既に山元ではスト實施の無記名投票を實施し五百二票對五十九票で贊成、スト突入の態勢が整えられている

花嫁の希望者捜し

背の君は大野村の入植青年

石城地方事務所農地課では大野村駒込地區の開拓地に妻帯を條件として去る一月全村の高木蒂男君（二五）ら六名の入植を世話したが、何れも廿五六才の青年ばかりで花嫁さんはないかと目下各方面に呼び掛けている、花嫁の候補者は將來自作農として自立してゆくしつかりした婦人であれば希望者は全課の開拓係で申込むよう希望している

豆に紙幣混ぜて撒く

あす節分 福わ内會賑う

明三日は節分、何處の家庭でも豆を撒いて「福は内鬼は外」と今年も良い年であるように祈る日である—平市子鍬倉神社では御立三十三年の歴史を持つ石城福わ内會と提携して恒例の豆まき會を午後一時から開くが、今年は寅年とあつて勢よろしく參列者を呼ぶために二斗の豆をいつて豆の中に紙幣や映畫館の入場券等を入れて撒くということである、歳男は蛭田浦（胡摩澤）佐藤福太郎（才槌小路）氏等二十名で上下姿も勇ましく豆撒き祭を施行する又今年の厄除開運祈禱の會員は厄年の男十五、二十五、三十七、四十二、四十九、六十一才、女の九、三十三、六十一歳等の人達が千二百名も參加して居り、これらの人々の會員費は三十円で祈禱料は五十円と百円の二通り、歳男の申込金は千円でこれが今年の相場だと言うことである、なおこれらの人々の祈禱は午前八時に節分祭と共に行われ午前中に御札、豆、福升が配布される。

皆様の休憩室 平会館 ☎624

相合橋修理

車馬交通止

平土木監督所では二日から草野村原高野と大浦村大森地區をはさむ六號國道の相合橋を修理中で二日の午前七時から八日の午後七時まで一般車馬の通行を禁止したこのため常磐交通では平ー四倉間のバス運行を平ー相合橋、四倉ー相合橋とそれぞれおり返し運行をしている、なお徒歩、自轉車は修理中でも渡れるような便をはかつてある

自由勞働者組合結成

きよう平で百五、六十名集合

石城郡内各地に次第に興りつつある自由勞働者團結の動きに刺戟された平市内自由勞働者組合結成大會は二日朝七時五十分から平職業安定所横隣場で開かれたが此の朝集つた自由勞働者は内郷、赤井等既成組合員の應援に來た者を併せ百五、六十名、其中には女子五、六十名はじめ老人も相當數含まれ先ず司會者野崎峰氏の挨拶に始まり來賓に平地區勞書記長佐藤利男氏の激勵演説規約制定、役員選擧、當面の活動方針決定とやつぎばやに議事を終り引續いて大會の決議文を[illegible]所、市役所警察署に突きつける事を提案したがこれは否決され、最後に職業安定所に對し同所の二階一部を組合事務所として貸せ、輪番制とあぶれを解決せよの二項目を突きつけ交渉を迫つたが所長不在のため物別れとなり同八時四十五分散會した

生徒の缺席も續出

流感豫防に注意書配布

惡性インフルエンザの傳播が警戒されているとき二日平第一小學校では一度に百五名の集團缺席があつた、何れも風邪のため同日の市内各學校の缺席狀況は

△第二小學校一八名第三小學校二六名△第四小學校十一名△第一中學校七〇名△第二中學校五六名計二百八十七名で風邪による缺席が殆んど、まだインフルエンザかどうかは判らないが市でも放置出來ないと次の如く注意書を市民に配布した

△特効藥は日本にはないので、近くに發生したら傳染が早いから特に人混をさけること

△外出時には「マスク」の使用（〇、二%のカメレオン水）手洗の勵行をすること

△常に健康に氣を付け感染したらすぐに床につくこと

【罹感の症狀】三八度ー三九度の發熱があつて關節、腰痛がある、せき多く、鼻出血又は胃腸症狀を呈し下痢を來す、これ等の病狀は一週間ー十日間に徑快する

アプレゲール少年達

旅費に困り泣き込む

一日午後五時頃平市署を訪れた四人の少年、郡山まで歸りたいんだが汽車賃を無くしオーバを賣りたいから證人になつてくれと陳情、事情が怪しいので深く突つ込んだ所「實は双葉郡木戸村の者です」と本性を露わし此の日の朝四人の内の一人木戸村千代田炭礦社宅に住む古河某（新制中一年）が父に叱られたのを氣に病み登校途中一緒になつた弟（小學校三年）と弟の友達敞塚、村林（共に小學生三年）の三名を誘つて平市に遊びに行く事になり早速父の會社に赴いて父から頼まれたと二百円を借り受け平に出て來た迄は良かつたがオーバーのポケットに入れていた筈の殘金百二十円をポケットの穴から落してしまい處置に困つてオーバーを古着屋に賣る事にし古着屋を訪れたが警察の證明が無くては駄目だということが判り市署に罷り越したという譯、この末恐しい少年達ー金が手に入つたならばそのまま郡山に住む古河の伯母の許に行く豫定だつたらしく同署でも驚いて早速家に連絡、一晩同署にとめた上、日朝親の出頭を求めて引渡したがーげに恐しきはアプレゲールの子供達！

教委でも豫防法通知

教委石城出張所では二日インフルエンザの發生について各小中學校に對し集團生活をしている學校では豫防に万全を期すようにと具體的な豫防方法を詳しく通知した

對策の打合會

平市内の小、中、高校でも風邪による缺席兒童が眼立つて來たのでこれに對する豫防對策の打合會を二日午後二時から各學校擔當敎官が集り磐城高校で開催、平保健所からも渡邊係官が出席インフルエンザの症狀並びに豫防方法の説明を行つた

お年玉付ハガキで洋服地グローブ當る

幸運者は配電の丹野厚君

平局窓口から賣出したお年玉付ハガキの當選者が二日同局に現われた、東北配電勤務の丹野厚さんで一等の「九一八、六〇七」（純毛洋服地一着分）二等の「九一八、六〇六」と「九一八、六〇八」（本皮學童用グローブ）三本を同時に當つたもの、平局ではそのほか當つている人はなるべく早く賞品を受取りに來て下さいと呼掛けている

少年の盗み

湯本町湯本日雇某（一七）は去る一月二十一日午後二時半頃湯本町役場内で責任者古山可光さんの人夫賃金を拂袋中より現金一千九百七十二円を窃取更に昨年末頃から同町常磐野球場に置いてあつた泰樂砂さんの中古品リヤカー一台四千円相當を盗み一日送檢

學生を表彰

平市火防組連合會では一日午後一時から市役所選擧管理委員會室に役員會を開き夜廻りの小、中學生の表彰、小學校生徒の防火ポスター展の入賞者（一クラス二名）二百四十六名の表彰などについて打合せた外非常線用綱一組五本（長さ三間）宛三十三組に對して配布し非常態勢にそなえることになつた

馬目豐間町長

病氣療養中だつた豐間町長馬目常吉氏は一日午後六時半永眠した、享年六十九、同町では二日午前九時より急施町會を開き五日午後一時より大字豐間の自宅で町葬を執行することに決定した

馬目氏は町議六期、漁業會長、農業會長等をつとめ初代公選町長に選ばれた同町の元老で特に豐間漁港の建設にはその一身を擲げて盡力した人であり人のためには自家をもかえりみない性格は町民から一層親まれていた

豐間町長**馬目常吉**氏二月一日午後六時三十分急逝（腦溢血）いたしました茲に謹んで生前の御交誼を謝し御通知を申上げます

追て葬儀は二月五日午後一時自宅出棺本町淨照寺に於て町葬を以て執行いたします

昭和二十五年二月二日

葬儀委員長 町長代理助役 **遠藤菊次郎**
同副委員長 町會議長 **遠藤專**
喪主 **馬目壽一**
外 **親戚一同**

天氣予報

二日

【今晩】西寄りの風强く曇りがちの天氣

【明日】北西の風稍時々晴間のあるはつきりしない天氣

海上はおだやか

暖かな感觸
毛織服地即賣會
各産地の優秀品豐富に取揃えて
平市 衣料品の店 かみや

自轉車の御用は
親切丁寧迅速
六丁目 門馬自轉車店へ
熊澤の自轉車 ダクラス號自轉車 代理店
◎分解掃除大歡迎

告

自動車運轉者の免許證更新並に檢査

道路交通取締法令の改正に伴い自動車の運轉免許證の檢査並に更新を二月十日より二十八日の間に致しますから關係者は指定の期日に次の書類を用意の上出署下さい

◇提出書類
イ、自動車運轉免許證更新申請書（申請用紙は警察署にあります）
ロ、身体檢査證（平市十五丁目平病院を指定）
ハ、寫眞二葉（名刺版）ニ、印鑑、筆記具持參
ホ、更新手數料（金百円）

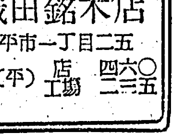
昭和二十五年二月一日
平市公安委員會
平市警察署

藤越の包装紙圖案
お選び下さい
當店陳列窓の圖案十點の中より皆様のご投票で決定いたします
一、投票用紙 多少に拘らずお買上毎に一枚差上げます
二、投票箱 當店陳列窓側
三、〆切 二月六日
四、發表 二月七日
◎當選作にご投票の方の中より抽籤で三十名様に粗品進呈
新停留場『藤越前』
二月一日より各線往復共バスが停ります。切符賣場は藤越入口にありますから御利用願います。
デパート 藤越
平市銀座 電二六五

青色申告制 納税帳簿のつけ方
商店經營と新稅制
商店界別冊増刊 定價八〇円
ホームラン 三月號發賣中
平市銀座街 電一〇七四
石川書店

最高級品
ブラザーミシン
販賣所 平市二丁目
石川ミシン商會

銘木
ベニヤ板各種
床柱 天井板
建築木材一式



織田銘木店
平市一丁目二五
電話（平）店 四六〇 工場 二三五

節分と豆まき

史談會員 **鈴木光四郎**

ながい寒もあけて人々は春待つ心にみちみちているこのときに當って節分と立春の意義や行事を調べ語り合って平和な春を迎えたいものである

節分

冬と春との境を意味する日であり立春の前日のことであるが本來は立春の時刻を指したものと思われる、古くは節分は立春に限らなかったことが源氏物語の宿木の巻に『四月の朔日頃節分とか云ふ事』とあるのでもわかる、此の日は冬が終って初春の陽氣を迎える日として邪氣を拂い福運を招く意味の行事が多い、又舊暦によるとうるうのある年は年內に立春になることがあり松の內に節分となることもあるので、年越の日とか神樣正月とか年占いとかの正月行事がこの日に行われることもある

立春

舊暦では正月の節に當り太陽の黃經が三百十五度に達する時で太陽暦では二月四日頃となる東風解氷、ちつ虫始振、魚上氷と稱し、この頃になれば次第に暖かさも加わって春になると云う、立春は舊暦では種々の行事の基點となり八十八夜、二百十日などはこの日から計算されるのである

節分と新暦

文部省迷信調査協議會の資料によれば節分は新暦に行われるのが多い即ち都市に於ては新暦が八十五％農村は六十九％漁村は六十％平均七十三％となって居り舊暦を多く用ゆる農村に於ても節分は新暦によることがわかるのである

豆まき

節分の行事としてよく知られているのは豆まきである、この風習は最近になって盛んになってきた、もとは年男が齋戒してやる行事であったが今では子供や人氣商賣の藝人などが神社や寺院に於て豆まきをするのが都會に於ては見られるのである

豆まきについて『宜胤卿記』には文龜元年（西紀一五〇一年足利義澄）十二月二十二日『明日立春故、及昏景、宜毎室散豆、因唱鬼、外福內』とあって中世には節分の行事が既に行われていたことがわかる、豆をまくときは家の者が總て家の中にいなければならない、それ故この夕には外出しないこととする

豆をまくときには先ず豆を神棚に供えてから下して『福は內鬼は外』と唱えながら撒くのであって、所によっては福は內を三度鬼は外は一度だけ唱える場合もある

ヤイカガシ

節分の夜には香の高いものを焼く風習がありイワシの頭を焼いて串にさしてこれを門口に立てるが、これをヤイカガシと呼ぶ、その臭氣によって鬼を退散させるので串にする木はヒイラギや大豆のみきを用ゆる、焼いた臭氣によって鬼を退散させると同時に農作物に害ある虫などを焼いて豐年を祈ることもある

厄拂い

節分の夜は鬼を退散させたり農作物の害虫を除去するための呪法が試みられるが、この日には厄年の人が厄拂いをする、厄拂いを呼んで厄を拂ってもらうことが行われた、今日町で見られるような群集の中で行われる豆まきの行事は新しいもので元來は我が國に固有の年越の習俗であった

石城の節分

以上の節分の意義と行事は全國的なものであるが石城に傳承されている節分の行事について石城歳時記によって說明したいと思う、節分、豆まき、年とりとも云う戶毎に入口に刺すものとしてはイワシの頭が用いられる、夕方これを豆の枝の先を割ってヒイラギの葉と共に挾み又はヒイラギの枝に挾む場合もありイワシの代りにワカサギを用いる場合もある數は平年は十二ウルウ年は十三となっている

豆は豆がらを燃していり、豆の枝で豆をかき廻す、これをマスに入れて神棚に供え年男がまくが神棚のある部屋より台所、土藏、物置、カワヤなどの順である、まいた豆は自分の年だけ拾って食べる、豆は福茶にして飲むと病氣にならぬとか、節分の豆は初雷の時に食べると落雷せぬと云われている

むすび

冬來りなば春遠からじ、と云われるが節分は寒い冬の日から開放されて春を迎える希望の日でもある、終戰後苦難の五年が續いたが、やがて平和會議も期待されているこのとき節分の日に我が國も我々も厄を拂って新しい出發をしたいものである

（二五年一月二五日記）

僻地教育振興會

三日平石城支部の結成準備會

山間僻地校も都市と全じ水準の教育を持たなければならないとして去る二十日縣僻地教育振興會準備會が福島市に開催されたが、全會に出席し準備委員長となった木村守江氏及び委員となった郡連合PTA會長成瀨巴三、教委石城出張所長菱沼の三氏は全會の平石城支部を早急に結成しようと關係者に呼びかけ三日午前十時から地方事務所會議室に結成準備會を開く

すでに視覺教育についてはナトコ操作免許者も僻地校に見られるようになったが設備やその他の關係でこれが教育方法も急速には具体化していない現狀であるのでこれらの教育とともに教育の全般に亘ってそれぞれの地域と並行した教育方法の中に水準を高めようとするものである

上平窪青年會を表彰

社會奉仕に努力

平市上平窪青年會は一日平市役所で行われた道義高揚對策懇談會の席上で鈴木市長から表彰を授與された

全青年會（會長金成金治さん）は二十三、四兩年度の共同募金に市內各種團体のトップを切って盡力し、又昨年五月原田地內の縣道から林道に通ずる道路改修工事に際しては五千円の赤字に對し勞力を持って補った等幾多の社會奉仕を感謝されたものである

平窪青年會

皇居清掃へ

平市下平窪青年會では昨年に續いて第二回の皇居清掃を行うことになり松崎與他氏が奉仕隊長となって隊員二十六名を四班に分け三日夜平を出發四日から三日間清掃奉仕を行って來る

不正木炭業者

嚴重取締る

石城地方事務所では木炭の不正販賣を防止するため年末から數回に亘って各業者を集めて懇談會を行って來たが、その後も不正販賣は後を絶たず特に業者でない仲買人などが現れて生産者から卸業者を廻さず直接小賣人に渡して居るものが相當數にのぼって居りそのため生産者側でも中味や量目をごまかしているので消費者に迷惑が及ぶため國警を通じこれら不正事業者を斷固取締ることになった

平地區は三位、市署は四位

捕物競爭 猪狩警婦は六位

昨年十一月二十日から一カ月間縣下國家、自治体各警察署一齊に行われた捕物競爭の縣全体としての成績が三十一日國警縣本部から發表されたがそれに依ると平市、石城郡關係警察署の內五位以內に入ったもの次の通り

△A級（十七署）

三位＝平地區、四位＝平市

△B級（十七署）

五位＝植田地區

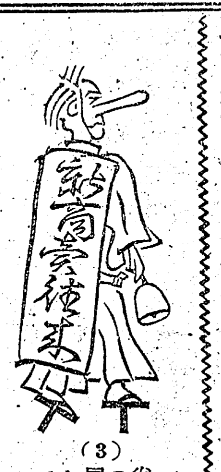
なお個人では平地區角田秀雄巡査が四位、平市猪狩眞代子婦警が六位に、また平市遠藤正利巡査が十五位に夫々席を占めているが、中でも猪狩婦警が縣下數多くの猛者連の間に交って上位を獲得することが出來たのは將に驚異に値するもので注目されている

着物に點火

幼兒火傷死

母親は過失罪

內郷町白水無職山田千代子（二二）は昨年十二月二十二日午前七時過ぎ頃自宅八疊間で長女邦子ちゃん（生後一年九カ月）を室內で遊ばせておいたところ邦子ちゃんは七百ワットの電熱器より衣服に點火腹部、兩足に火傷を負い間もなく敗血症により死亡させたことが判り三十一日內郷町署から過失致死傷害で送檢



（3）

テキ屋の巻

さあ〳〵御立會い

威勢のいい雜誌賣りも花形

◇…〝上原謙から福島縣、それこんなに綺麗な寫眞がのっている、一册でも定價は六十円月おくれの雜誌じゃない、いいか今日は特別勉強にサービスという奴をかけワン、ツウー、スリー、四、五、六…十、そこらの店で買えば十册六百兩もとられるものを子供は勉強、おかずはラッキヨ三百兩（バタバタ）百五十兩、よーし鶴の[illegible]、ブーブー[illegible]の二盤で百兩にまけておけ！〝ズラリならんだ十册の映畫雜誌、娯樂雜誌等を息もつかない程せわしくタンカを切り乍らかき集め群がる人達の足を釘ずけにさせておきつつ最後のしめくくりに客をのがせ[illegible]はならないと〝この產兒制限新書はそこここの店屋に賣っているものじゃない、この前販賣禁止されたものだ、さあさあ〝とここ一、二年續いた露天のこのバサ賣り（叩き賣）も一人買い三人買いで平市の大通りにズラリとならんだ數十の露天商の仲でも强合いの良い盤と共に矢張り花形、新商賣の一つに數えられるであろう

◇…この雜誌のバサ賣りをしているのが平市大通りに七つもあるが東京、大阪でもかなり好成績を擧げている[illegible]われ七分ネタが多いという、この七分ネタというのは例えば原値七十円で九、十册を仕入れて來て百円で賣るそうだが問題は仕入れの値段でこの利益の差も遂い運賃値上げに手古摺っており、東京の新本卸商の殘本とか殘本專門の店から買って來るもので先方でも心得、用意して置く處もあるが、賣れ本を取揃えるのは仲々ムズかしいとこの道のテキヤさんが仕事の途中チョッピリ內幕を話してくれた

◇…この商賣は先ず客を集めるのが先決で、露天にネタバイ（品物）を揃え、人の來るのを見計らって自分で研究つくり出した[illegible]々の能書、即ち前タンカといって人をあつめるのに約二十分間位、面白おかしくしゃべりたてそこで眞タンカと稱し客を自分の圍りに釘ずけにし自分の手振り身振りやタンカのふん圍氣の中に溶け込まし、最後の落し前という將棋でいう終盤戰の寄せで商品を賣るという順序になっており、群衆の心理をつかんでたんかをきるもの、聞く者の心がピッタリと一致するに至って始めて落し前で商品を賣りつける譯だが、永年の經驗でこの客は買う氣があるな、ということが一目でピーンと來るという、テキヤ用語の〝大縮め〝とか〝中縮め〝といって蛇とか氣合術、暗記術等で〝ほう、これは？〝というように人の意中を衝き客の興味を起させて商賣するテキヤの本領的なものに對しこのバサ賣りは人の顏を見ない（これがコツだそうです）でタンカを切り乍ら〝げそどめ〝（客が立止まる）の具合でわかるそうだ

◇…タンカの切り方も種々あり、やたらに台を叩く〝馬車うち〝もあり最後の落し前で客が手を出さず〝ねーかって下さいよ〝と哀願する新米者もみられ仲には〝こませ〝といって納得のゆくタンカで客を魅了させ〝映畫見ても六十円、金は詰まったしこの十册あればゆっくり家庭全員で娯樂出來る、經濟のひきしめが肝心ですよ〝という樣なことで話す客手によって內容も違うがこのタンカの切り方によって賣行きの大勢が定まるという

◇…一日の賣行き―これは勿論天氣の良い日でないと商賣は出來ないが―新商賣とみられるだけに成績は良いらしく矢張り、タンカの上手、下手で賣上げも異なり上手な人は同じ日に近くの賣場で二十組も違うという樣にマチ〳〵「最近はダメですね…」と言っているが三十組賣れれば千円は儲るという勘定？買う人達は職工とか勞働者、田舍娘と殆んど手を[illegible]なという、炭鑛町では依然エロものの雜誌がよろこばれているが、一時雜誌の叩き賣りと云えばエロ雜誌かと相場はきまっておったものの最近ではエロものも相變らず姿を消さず婦人雜誌、漫畫、少年雜誌という樣に大衆的な方向に趣味が移向しつつあるのも事實で月おくれのものといわれた、雜誌も現在では少くなっておりカストリ雜誌（殘本の良い箇所をいりぬいて作った特別雜誌）も依然多いが、競走相手が多くなれば、客人の傾向をとらえて雜誌の撰擇をするのも仲々の仕事だという―「不景氣のどん底か景氣の絕頂にこそ本當の金儲けが出來る」と語氣を強めるテキヤさんの話をポツリ〳〵頂戴し乍ら「兎に角、負けずに稼がなくちゃやしようがねい―」という言葉を最後に引揚げた（小野）

橋本家具店
平市新川町一

強くて明るい……
東北配電 平市役所 指定納入品
電球はトウト
東部電球株式會社製品
福島縣代理店 さかいや本店
平市六丁目電485番

中華料理
華香樓
電七〇二番
そば一ッ料理一品でも早速御届け致します

タカス
宅地家屋 賣買物多
[illegible]田屋商會
平市三丁目
平市銀座通 電1104

土地家屋賣買
中央會館
電九一五番
公會堂通錦湯隣

仕出し
江戸前 [illegible]壽司
世界館前

月賦販賣
品質保證ノ良イ品ヲオ安ク
五大會社代理店
大和屋商會
平市田町大通り

小兒科 內科
蓬來醫院
平市大町四二（木村醫院隣）
電話一〇三二番

オーヴァースーツ
其他婦人服
迅速安價裁縫
婦人服
平和通 若松
平電928

昭和24年最高審査 精米麥機中 只一優勝旗受領機 竹佐
E型精米麥機
馬力一定 風力集糠 萬能精白
昇降機不用 籾つき最適 歩留最高
調節不用 原形精白 無水無砂 低溫低壓
原子爆彈的革命機
馬力½・1・2・3
堅型橫型よりE型時代へ
原料御持參下サレバ即時賣渡ヲ致シマス
正金商會
平市材木町電九三一番

耳鼻咽喉科
高柳醫院
高柳博明
平驛前（電一二二番）

春が來る！
破れをツクロイキレイに磨いて待ちましょう
硝子タイル瀬戸を磨く『グラスミー』
板硝子割當證明書取扱店
吉村ガラス商工 平市長橋町三〇 電話六八九番
平英ガラス商工 平市銀座通り（ハナブサ） 電話九五八番
新妻ガラス店 平市新川町六 電話一四二番